

【米原市】  
校務 DX 計画

1 現状

令和 7 年 3 月に「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト」に基づく各学校の自己点検結果を集計したものを次に示す。

(半分以上がデジタル化していると回答した学校の割合)		米原市	滋賀県	全国
学校の数		15		
教員と保護者間の連絡のデジタル化	欠席・遅刻・早退連絡	100%	89%	76%
	お便りの配信	40%	57%	49%
	調査・アンケートの実施	93%	66%	61%
教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化	各種連絡事項の配信	13%	19%	28%
	調査・アンケートの実施	87%	56%	54%
学校内の連絡のデジタル化	校内での資料共有	87%	90%	77%
	校内での情報共有	100%	79%	77%
	調査・アンケートの実施	87%	77%	67%
その他	FAX の原則廃止	13%	20%	23%
	押印の原則廃止	0%	5%	7%

(出典：校務 DX の取組に関するダッシュボード，デジタル庁，

<https://www.digital.go.jp/resources/govdashboard/school-affairs-dx#data-definition>, 2025 年 3 月 26 日時点の数値)

1 これまでの主な校務 DX 化

- 令和 4 年度：
  - ・統合型校務支援システム（クラウド型）を導入し、校務の効率化や情報の統一化、共有化を開始した。
  - ・校務用端末のインターネット環境を有線接続から無線接続に変更し、校務用端末 1 台で校務・学習系ネットワークの両方にアクセスできる環境を整備した。
- 令和 5 年度：
  - ・保護者連絡ツール（クラウド型）の本格的運用を開始し、統合型校務支援システムの名簿情報と自動連携させることで、管理運用に係る教職員の負担を最小限に抑えながら、保護者からの欠席連絡、保護者へのお知らせをスマートフォンのアプリで行える環境を整備した。
- 令和 6 年度：
  - ・メールホスティングサービスの利用を開始し、一部教職員に校務用の個人メールアカウントを発行することで、教職員の

働き方改革を推進した。

- 令和7年度：
- ・印刷機等の更新と併せて、FAXをペーパーレスで送受信できる環境を整備した。ただし、教育委員会からのFAXは従来通り紙印刷されるなどの例外はあるが、教職員の負担軽減を図る取組みを行った。
  - ・メールホスティングサービスのメール送受信環境を全ての校務用端末に設定し、教職員一人一人の事情に合わせた柔軟な働き方の実現に向けた取組みを行った。

## 2 今後の課題と改善

### (1) 連絡等のデジタル化

令和5年度から学校から保護者へのお便りや配布物などを電子媒体で配布するための保護者連絡ツールを利用している。今後、更なるデジタルツールの活用を進めるため、教員と児童生徒間の連絡や学校内の連絡のデジタル化を推進するため、デジタルツールの各種機能や活用事例の研究を進める。

### (2) FAX および押印の原則廃止

令和4年度に導入した統合型校務支援システムや令和7年度から開始したペーパーレスPC-FAXにより、FAXの原則廃止に向けた取組みを始めた。今後は、廃止できる書類と廃止できない書類を整理し、FAXおよび押印の原則廃止に向けた調査・改善を進める。

### (3) 次世代校務DXの対応

「次世代校務DXガイドブック（令和7年3月）」に記載される次世代校務DXの環境整備の4要素に基づき、環境整備を検討する。なお、県域でのクラウド型校務支援システムの整備については、滋賀県と連携しながら検討する。

### (4) 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃

令和4年度に導入した統合型校務支援システムにより、中学校への入学生情報は小学校から進学先情報として取り込まれる。しかしながら、小学校への新入学児童の名簿情報は手入力作業となっているため、今後、学校への情報提供方法を見直し、教職員の負担軽減となるような方法を検討する。